

2020年日本民間放送連盟賞 中部・北陸審査会 教養部門

1位通過 決定！
バイルタイ ～モンゴル抑留 72年越しのさようなら～



2020年日本民間放送連盟賞 中部・北陸審査会の審査結果が本日発表され、中京テレビ制作『バイルタイ ～モンゴル抑留 72年越しのさようなら～』が教養部門において1位通過しました。

■ 1位通過作品

番組

バイルタイ ～モンゴル抑留 72年越しのさようなら～

News Release

□番組内容

中京テレビ報道局で働くモンゴル人のO.ホンゴルズル記者は、抑留経験者が年に1度集まっていた「モンゴル会」取材。そこで出会ったのが、神戸市に住む友弘正雄さんでした。

満州で終戦を迎えた友弘さんは、ソ連軍によってモンゴルの首都ウランバートルへ移送。時は11月下旬、モンゴルではすでに極寒の冬が始まっており道中で足が凍傷に。生きるために両足を切断しました。

抑留を生き抜いた友弘さんは、1972年に日本とモンゴルの国交が樹立されて以降、モンゴルの大地に残された戦友たちの墓参りと遺骨収集のため、毎年のように渡航を続け、その回数は40回を超えました。

しかし出会った当時、友弘さんはすでに94歳。「向こうで死んでもいいから、最後の慰霊に行く」と連絡が入りました。ホンゴルズル記者は、迷うことなく同行を決めました。

友弘さんの最後の慰霊の旅に同行する中で、抑留という悲劇の過酷な現実と、その後のモンゴルの子どもたちとの心の交流を目の当たりにします。そこから私たちが感じたのは、悲劇を乗り越え現在の友好関係を築いた、先人たちのかけがえのない努力でした。

また、モンゴルの番組にホンゴルズル記者が出演し、抑留について知る人についての情報提供を呼び掛けたところ多くの反響が寄せられ、すぐさま取材を展開。日本人抑留者たちの看守だった96歳の元モンゴル兵の証言にたどり着くことができました。

抑留を経験したかつての日本兵と、抑留者の看守だったかつてのモンゴル兵。取材を通じて出会った2人の歴史の証人が戦後75年のいま願うのは「平和」以外の何物でもありません。

□製作著作 中京テレビ

【お問い合わせ】

中京テレビ放送株式会社 編成部 広報担当